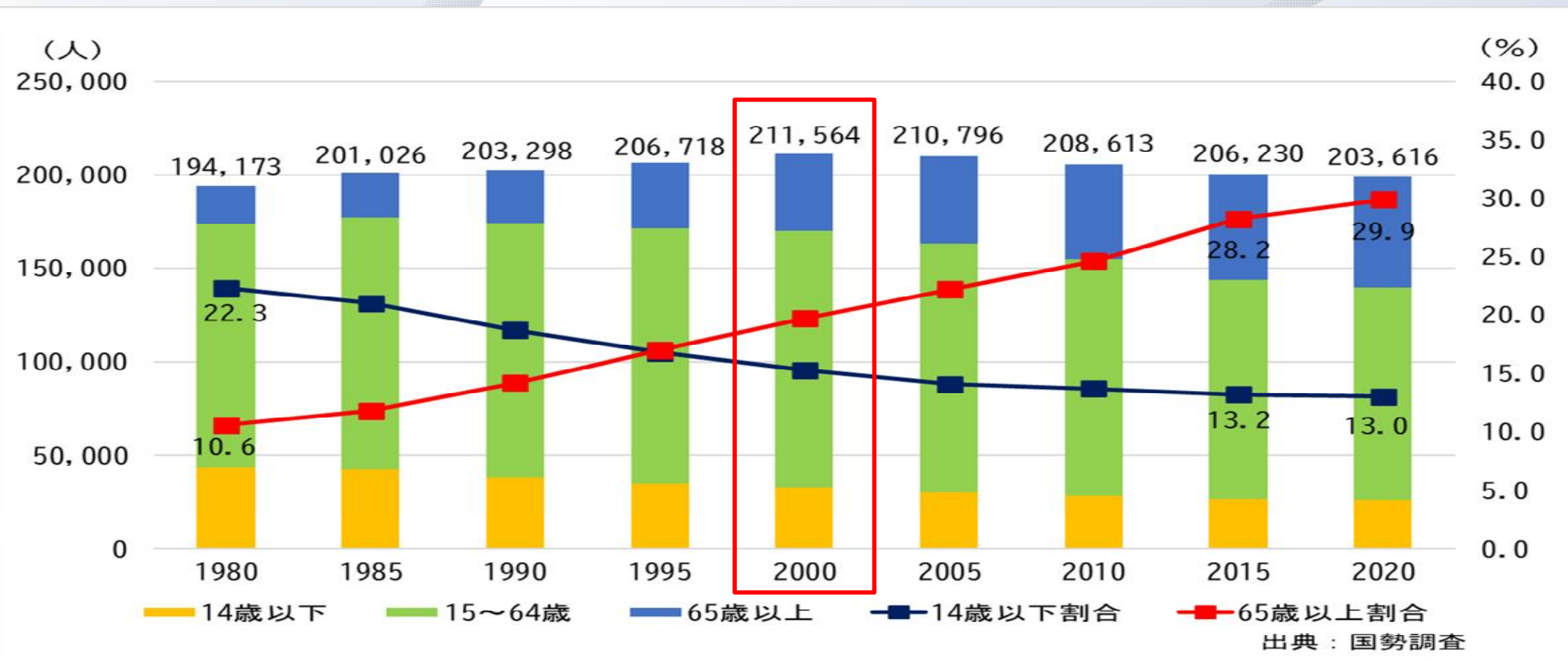


松江市の人口動態

2025.11.17 松江市総合計画審議会

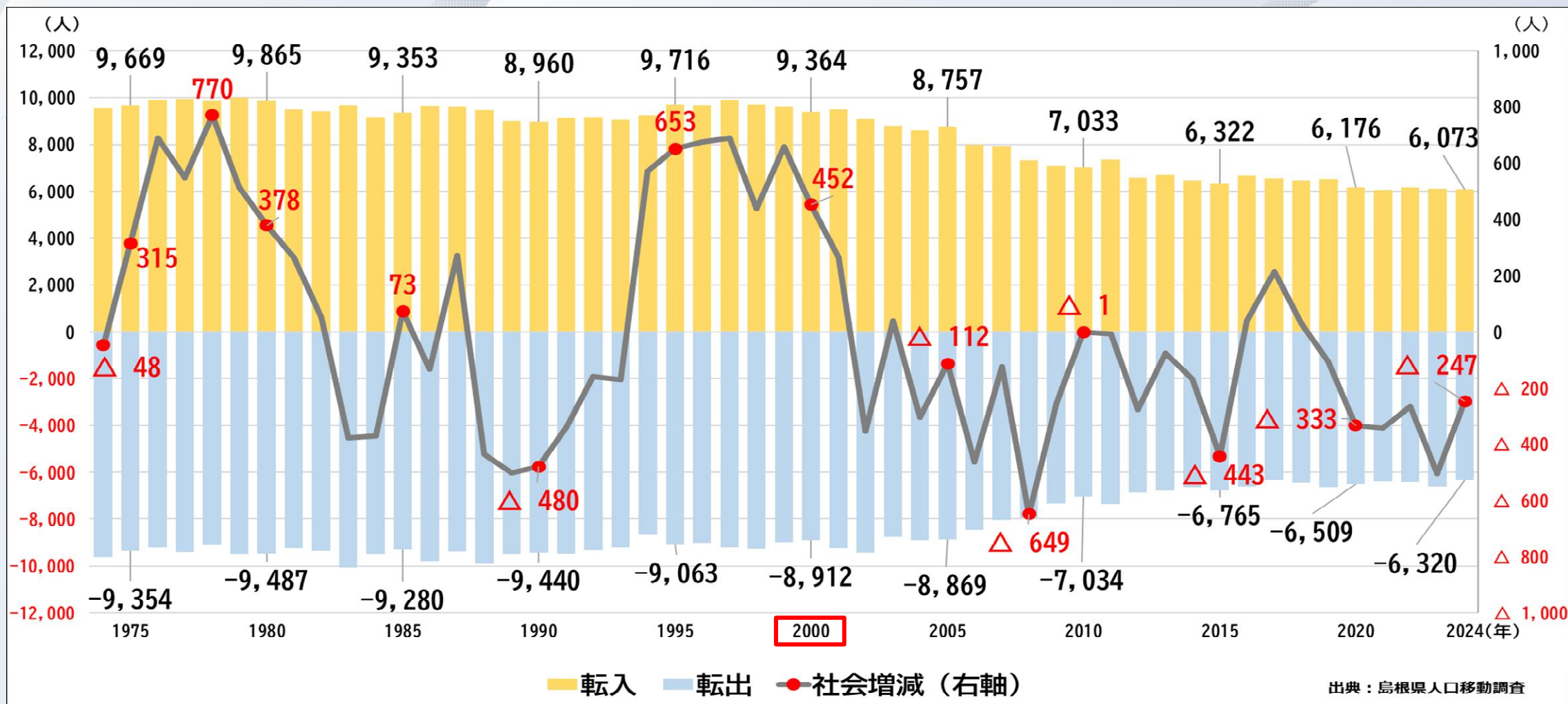
政策部 政策企画課

国勢調査人口の推移 (1980-2020)



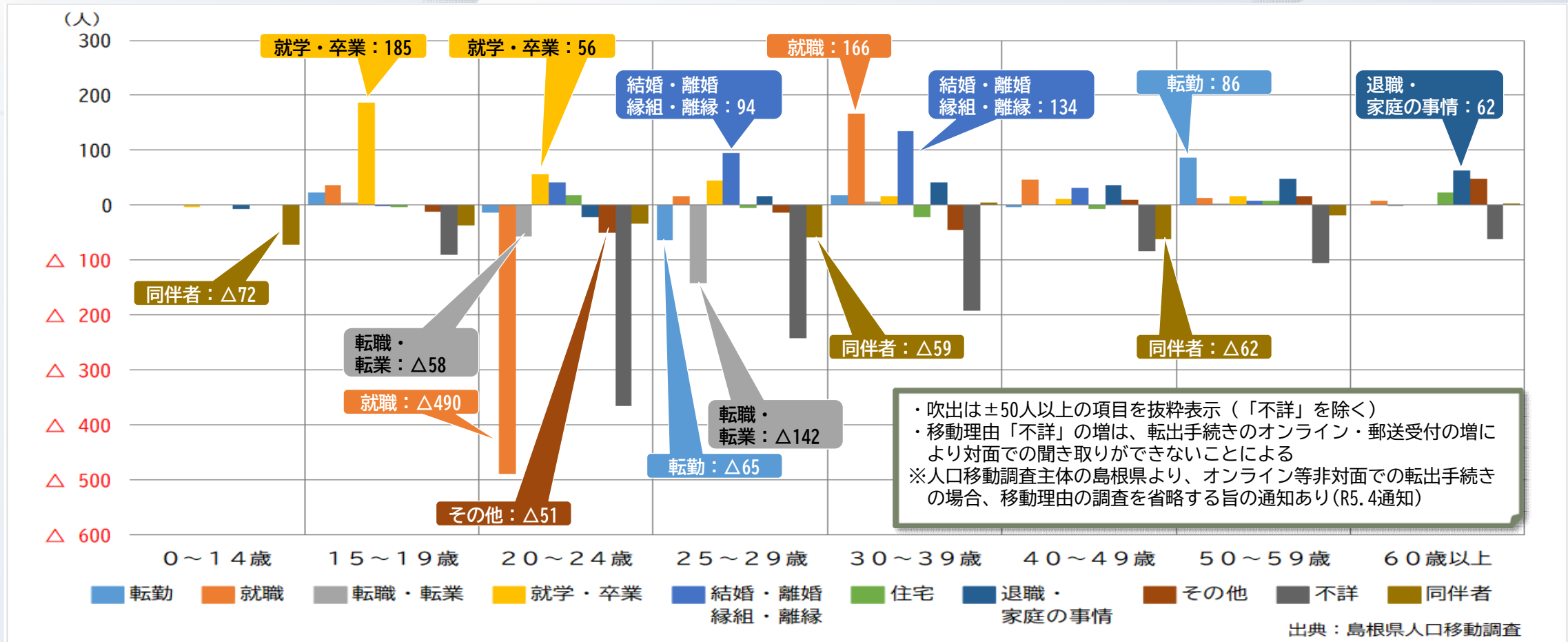
- 1995(平成7)年から14歳以下と65歳以上が逆転し、総人口は2000(平成12)年をピークに減少
- 住基人口(2020.6月末：200,990人→2025.6月末：193,146人、7,844人減)の推移を見ると、2025(令和7)年国勢調査も総人口20万人を切ると推察

社会動態の推移 (1974-2024)



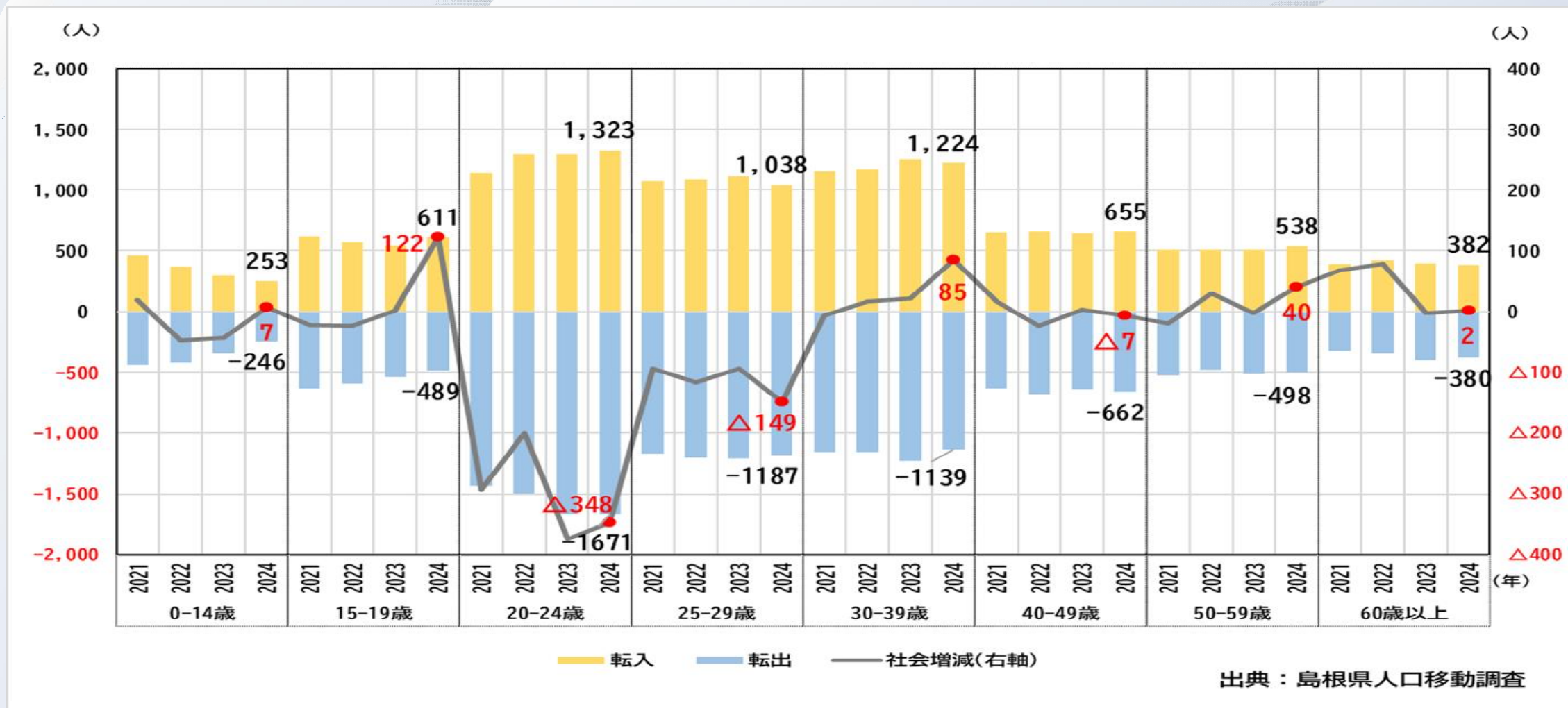
- ・ 2000(平成12)年の人口減少(国勢調査)に比例し、移動者数も減少
- ・ 近年は転出超過の状況だが、2024(令和6)年は前年比258人減の△247人となった

年代別・移動理由別移動者数（2021-2024・直近3か年計）



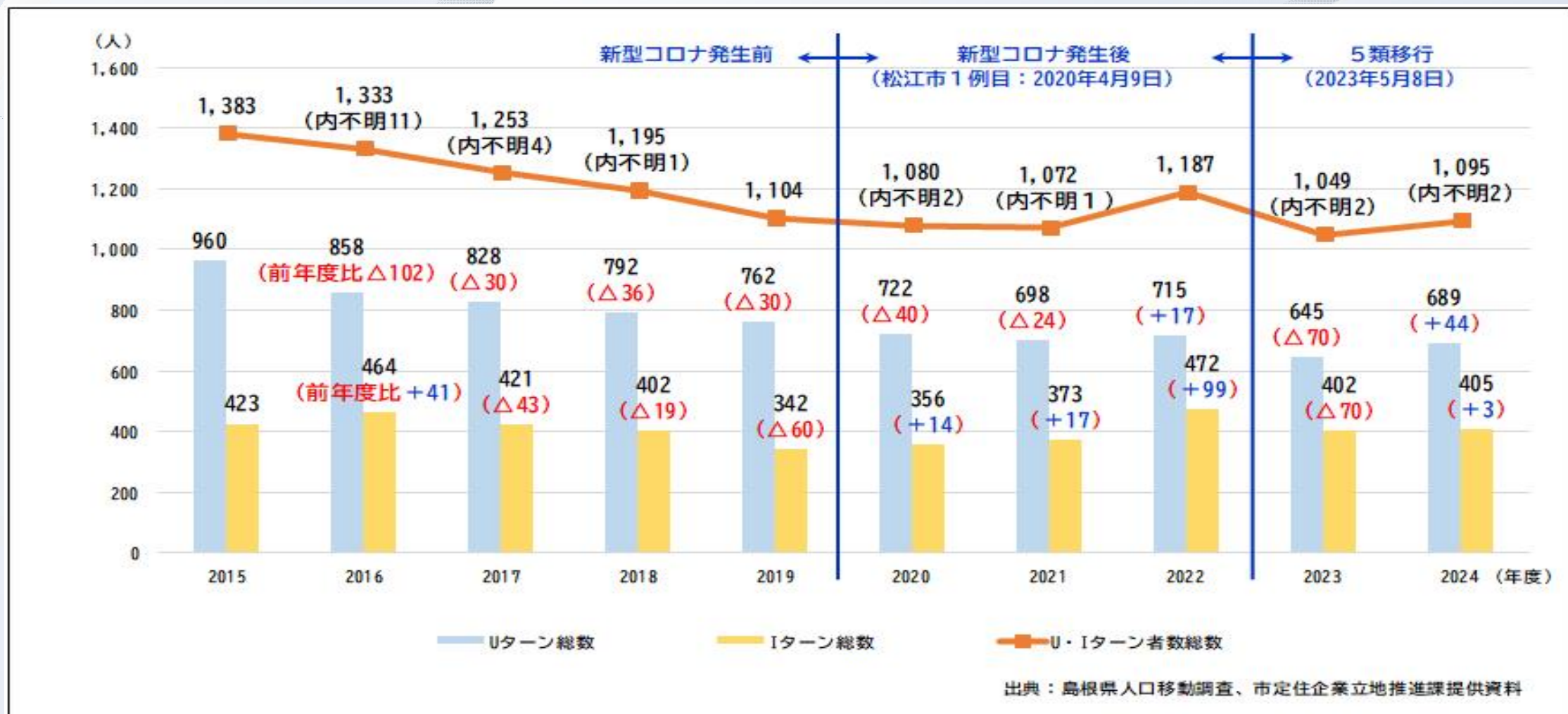
- ・「就学・卒業」で、15-24歳の転入超過が見られる
- ・「就職」で、20-24歳の転出超過の一方、25歳以上の転入超過が見られる
- ・「結婚・離婚等」で、20-59歳の転入超過が見られる

年代別社会動態の推移 (2021-2024)



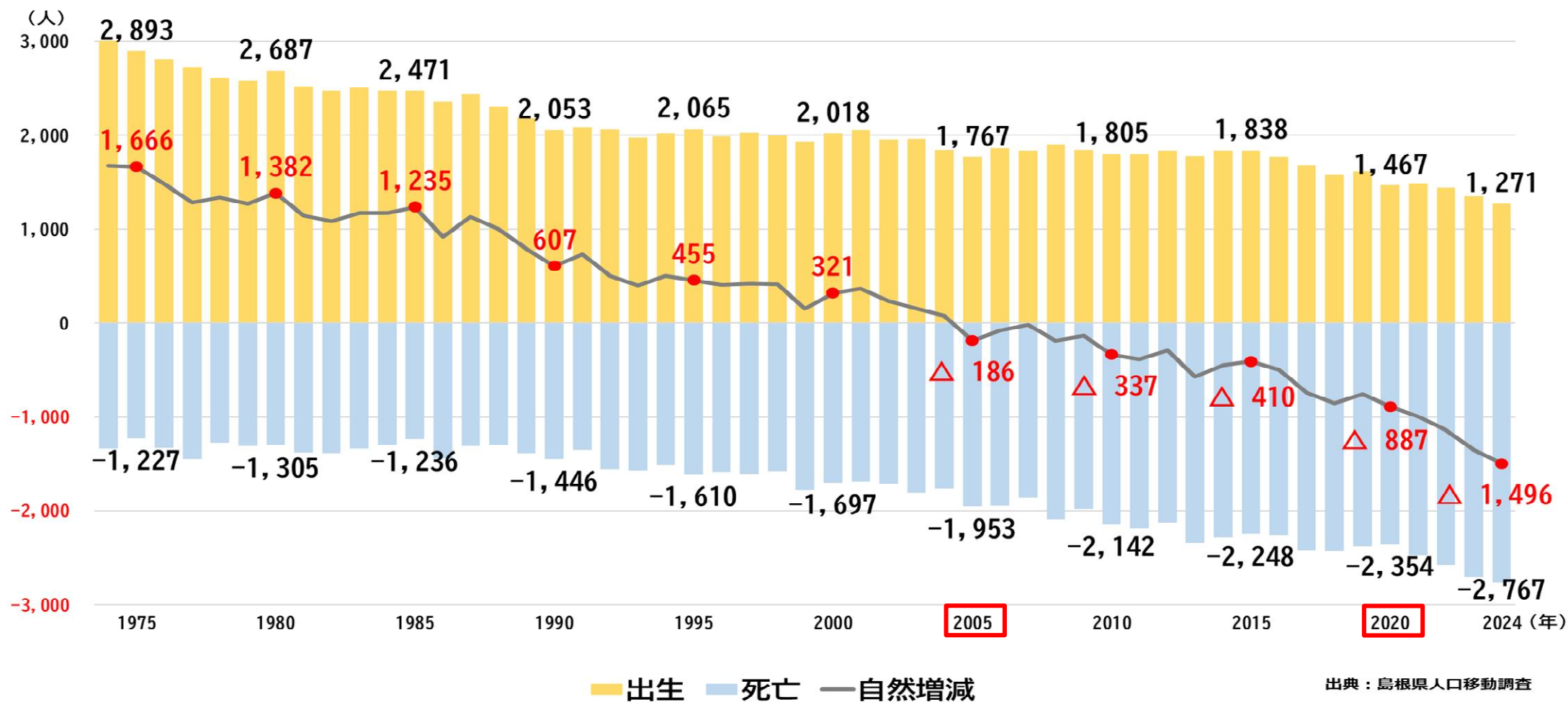
- ・ 20-29歳は社会減の傾向が見られ、主な理由は「就職」「転職・転業」が挙げられる
- ・ 30-39歳は近年社会増の傾向が見られ、主な理由は「就職」「結婚・離婚等」が挙げられる

U・Iターン者の推移 (2015-2024)



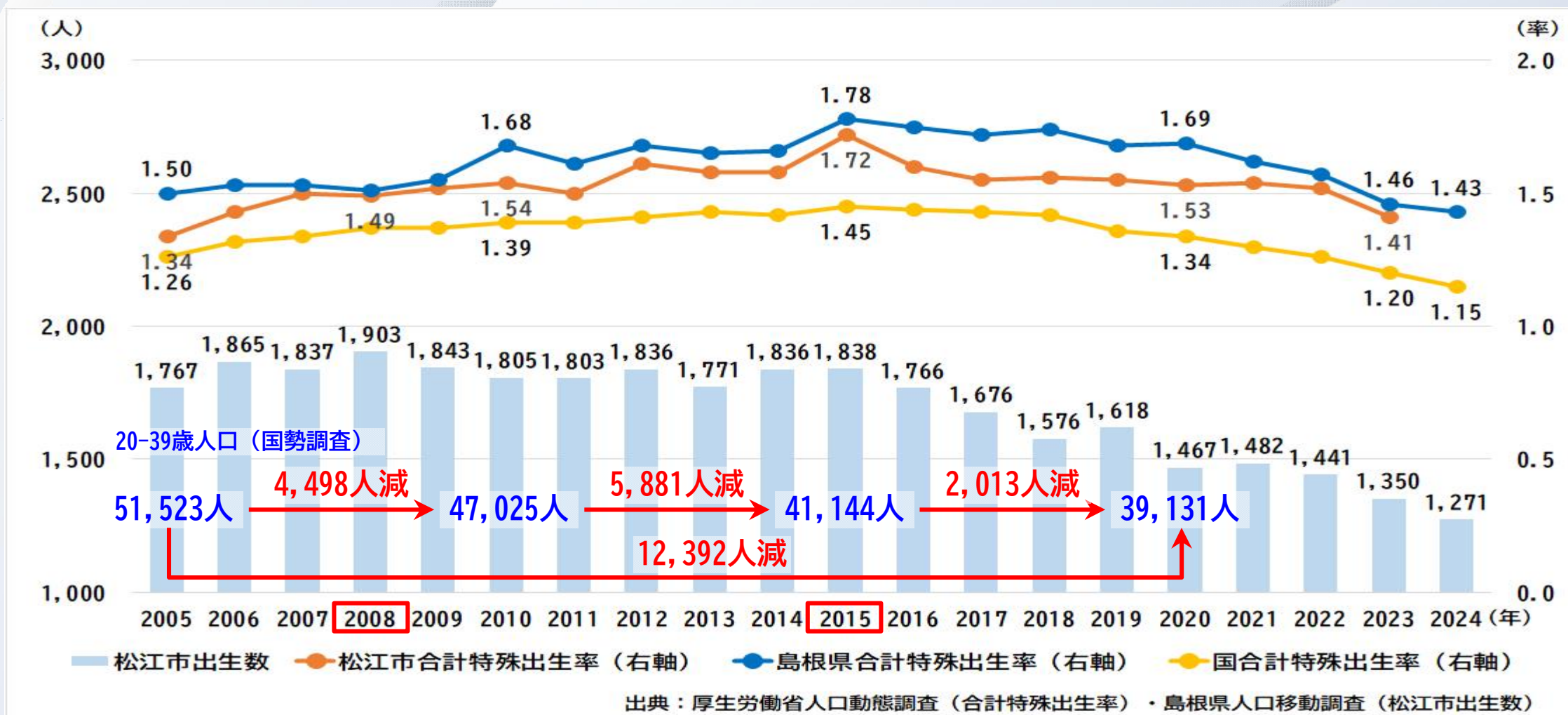
- ・ Uターン、Iターンともに対前年度比で増加が見られる
- ・ U・Iターン総数は2019(令和元)年からほぼ横ばい(新型コロナの影響はないものと推察)

自然動態の推移 (1974-2024)



- ・ 2020(令和2)年に1,500人を割り込んだ出生数は、2024(令和6)年には1,271人となった
- ・ 2022(令和4)年に1,000人を超えた自然減はさらに進んでいる(2022:1,136→2024:1,496)

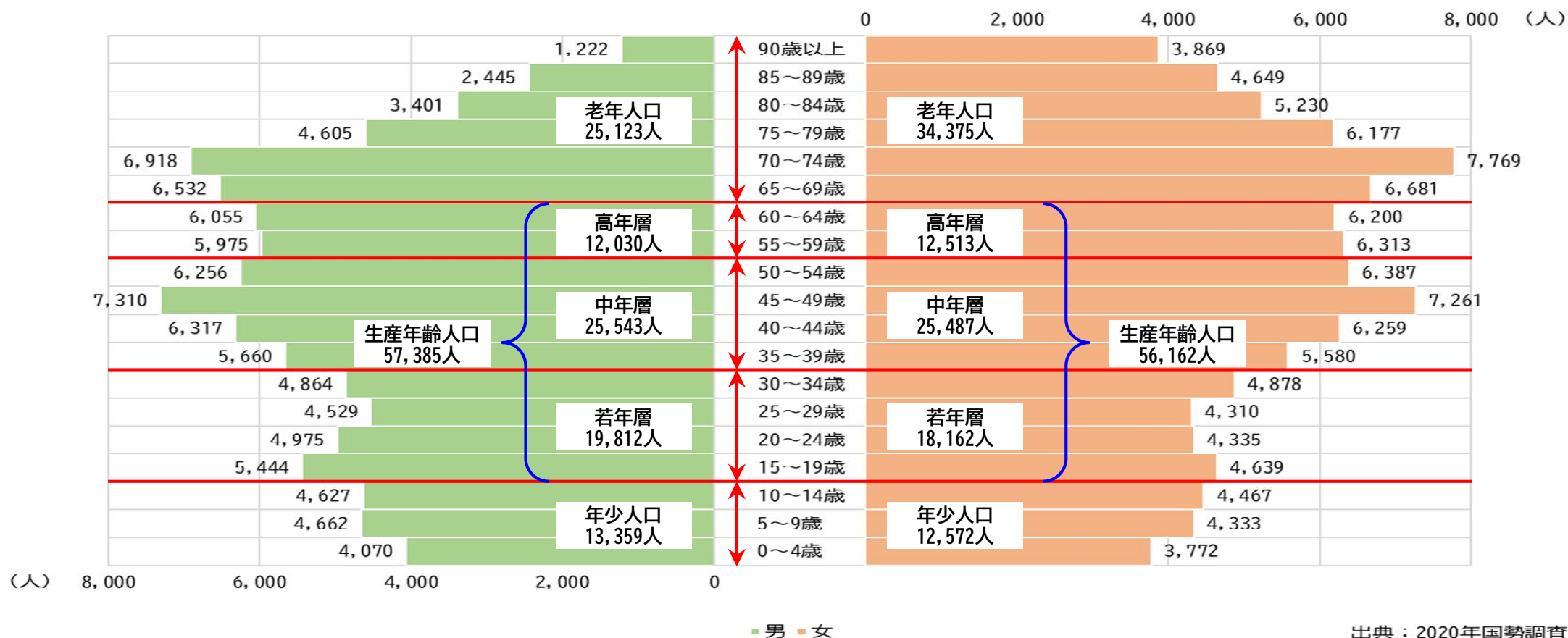
合計特殊出生率の推移 (2005-2024)



・近年1.55前後で横ばいで推移していた本市の合計特殊出生率は、2023(令和5)年に0.11ポイント減の1.41となり、2008(平成20)年の1.49以来15年ぶりに1.5を下回った

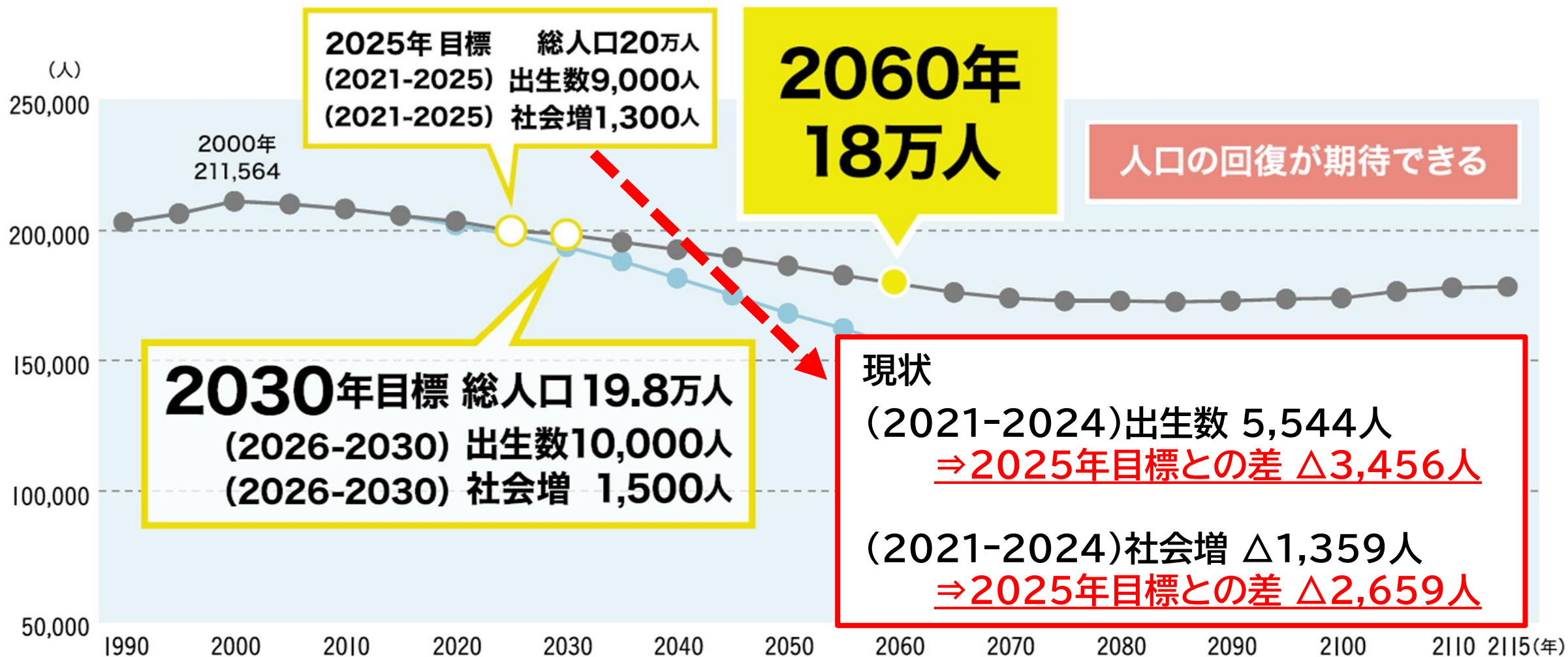
人口ピラミッド (2020国勢調査)

男性計：95,867人 女性計：103,109人 総計：198,976人
 ※その他、年齢不詳が4,640人あり、総合計は203,616人



- ・自然減（死亡者数が多い状態）は、若年層人口に対し、老年人口が1.56倍（男性1.27倍、女性1.89倍）と高いことから、今後も続くと予測される
- ・自然動態の傾向から2025(令和7)年国勢調査では、さらに若年層が少ない形状と推察

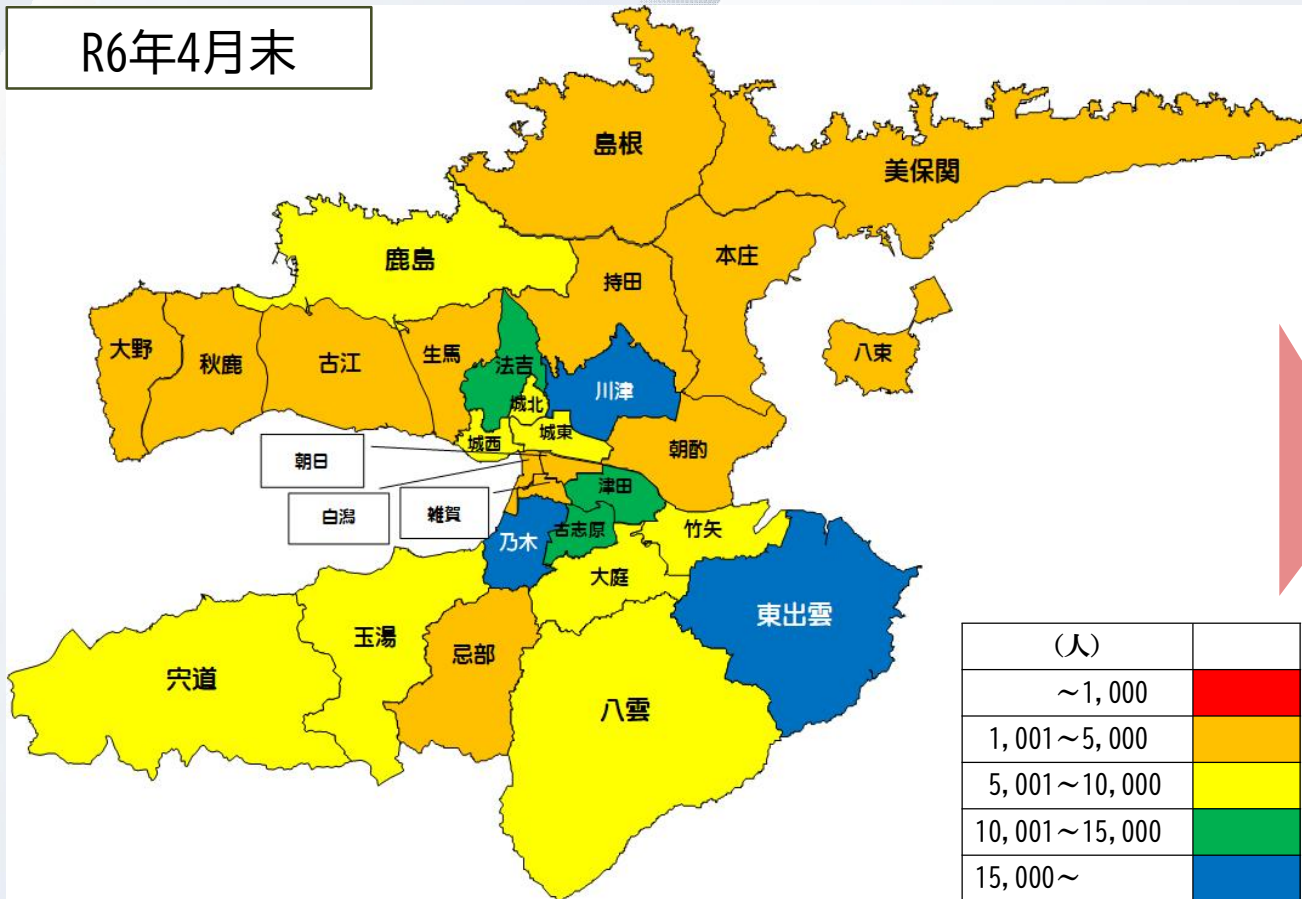
松江市人口ビジョン (MATSUE DREAMS 2030)



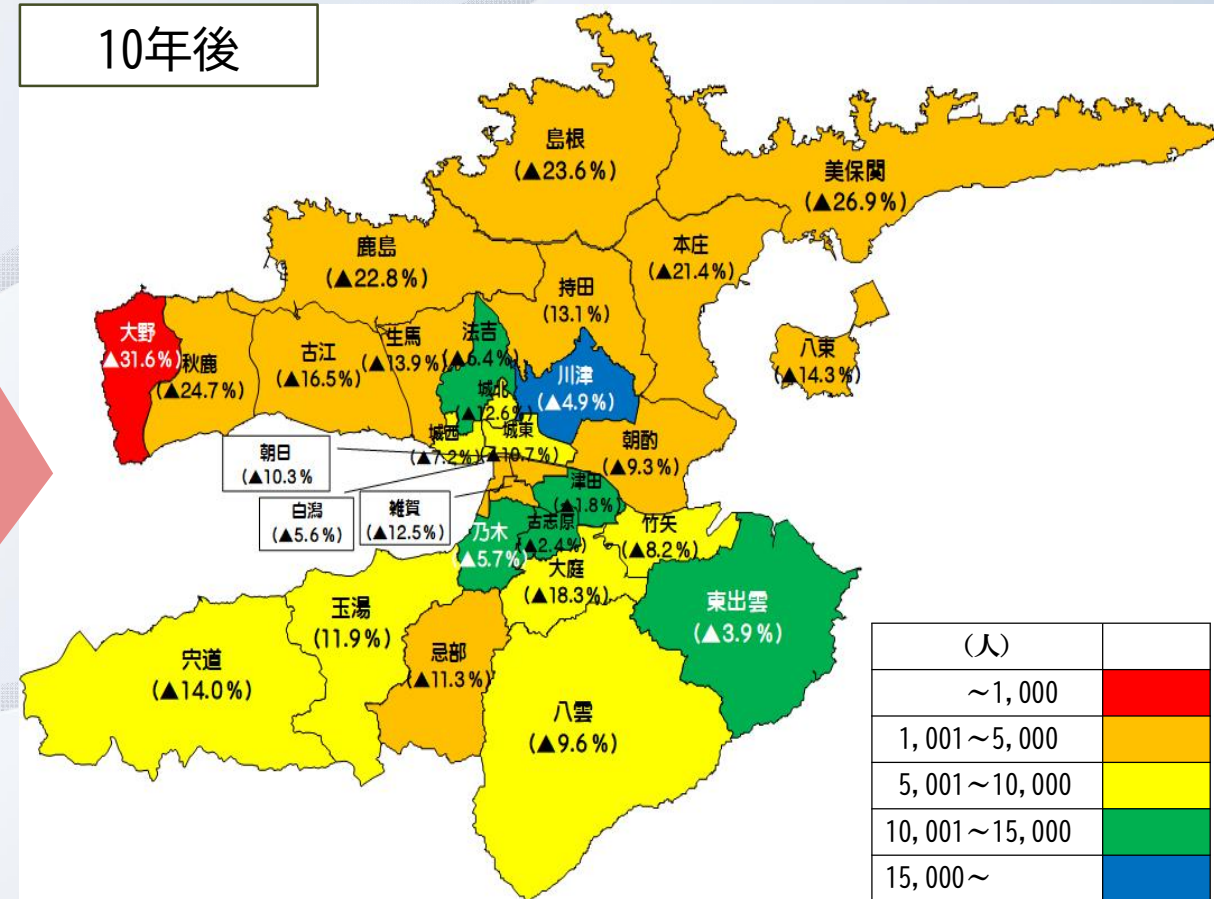
- ・人口ビジョンは、5年ごとの国勢調査の結果を基に検証・見直しをおこなうこととしている
- ・2025年の目標達成のためには出生数3,456人、社会増2,659人を達成する必要がある

公民館区別の人口増減率変化

R6年4月末

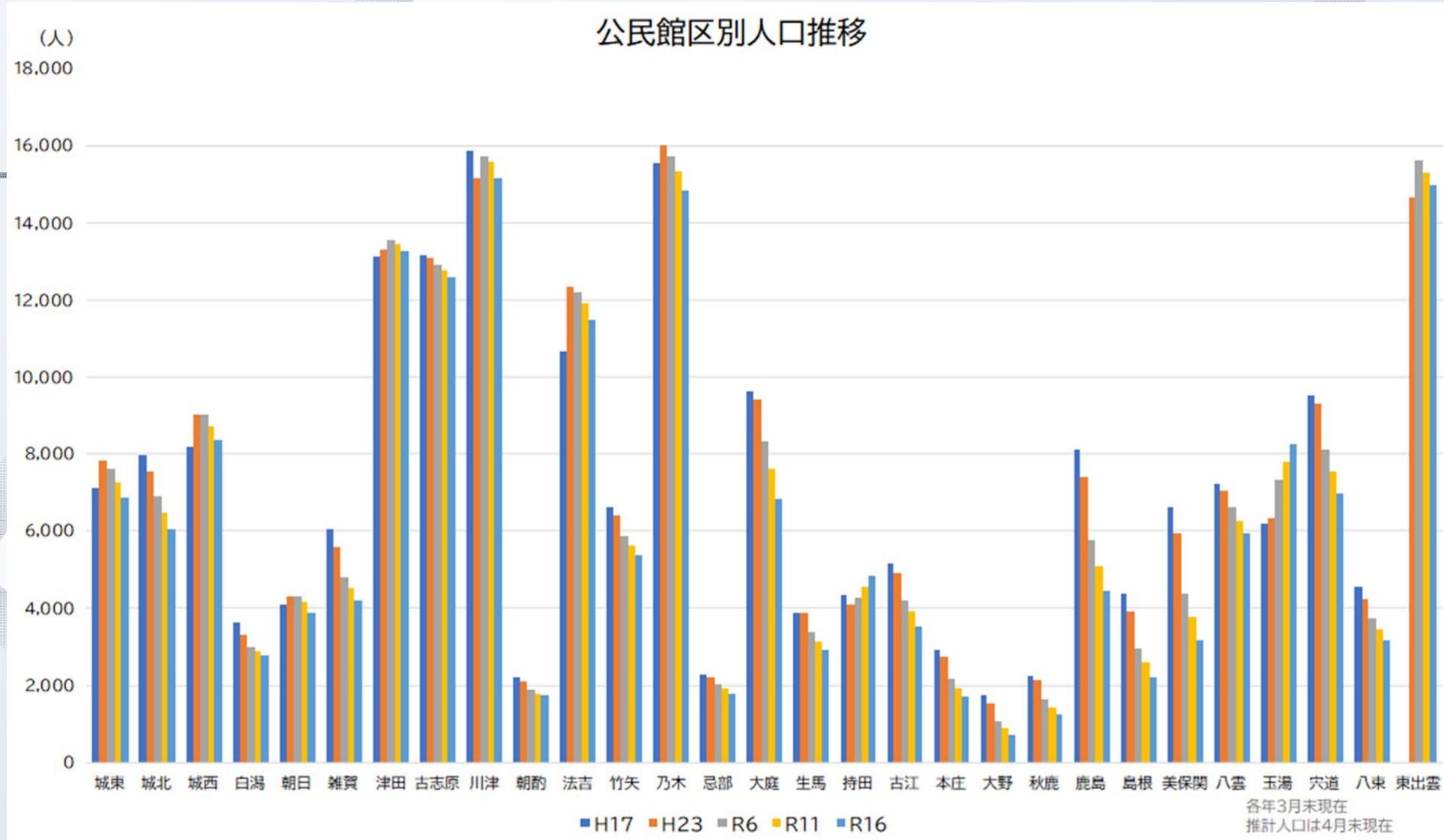


10年後



- ・ 15,000人以上の規模の公民館は、川津、乃木、東出雲と3館あるが、10年後には川津地区のみ
- ・ 10年後、大野においては1,000人未満となる予想であり、15,000人以上から1,000人未満と大きなバラつきになる

公民館区別人口推移



- ・各地区ともに人口が減少しており、今後も減少見込みとなっている
- ・玉湯地区においては、人口増加の推計となっている